

はくさい

1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	春まき栽培																	
秋まき栽培																		

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	秋まき栽培																	
高冷地夏まき栽培																		

: 播種
 : 定植
 : 収穫
 : トンネル被覆
 : トンネル除去
 : ハウス

アピールポイント

- ・出荷時期: 5月上旬～6月中旬、9月中旬～12月中旬。
- ・品種が豊富で、栽培期間が短い早生種や、小型の品種が充実してきているほか、キムチ用や鍋用など、調理用途に対応した品種も多くなってきています。
- ・一部の地域では、半結球の「かしん」といわれる、非常に軟らかく美味しい品種も導入しています。



2 各作型のポイント

(1)春まき栽培

晩抽性で、低温結球性に優れた極早生品種を用います。

抽台防止のため、育苗期から定植初期までに14℃以下の低温を受けないように管理します。

(2)秋まき栽培、高冷地夏まき栽培

耐暑性、高温結球性に優れた品種を選びます。

9月早々までに播種しないと、葉の枚数が確保できないまま冬季になり、結球しない場合があるの注意します。

栽培期間全般を通して、害虫(特に蛾や蝶の幼虫による食害)が多い時期なので、防虫ネットの利用など、防除の徹底を心がけます。

(3)各作型共通

用土は市販の育苗専用の土を利用します。ペーパーポットなどに3粒ずつ播き、順次間引きをし、健全な苗に育てます。

施肥は、元肥として必要量の7割程度を施します。冬どりで全体的に2割程度増やすようにします。

外葉を大きく育てることが収量に大きく影響します。

追肥は、年内どりで2回、冬どりで3回程度、速効性のものを施します。1回目は、定植後10日～2週目日ごろに株元に、次の追肥は、定植後1カ月日ごろまでに畝間に施し、根を傷めないように管理機などで中耕・培土します。

根が養分を吸収できないと生理障害が発生しやすくなるため、多肥栽培や乾燥・湿害による吸収阻害などに注意します。急激に肥料が効かないようなバランスのよい施肥の実施、有機質の施用による緩衝作用のある土づくりが必要です。